

# 24年度 期中モニタリング(事業評価)シート (別紙様式 2)

施設名: 夢美術館

評価区分 A:目標や計画を上回る成果があったもの B:目標や計画どおりの成果があったもの C:目標や計画を下回っており、努力が必要なもの

7月

NO.	期末モニタリング細目番号	評価月	評価項目	具体的な事業内容と成果目標・指標	確認資料等	4~7月								
						指定管理者の自己評価		所管課評価		改善プラン		所管課確認		
						評価区分	コメント	評価区分	コメント	改善・指摘事項の有無	時期	内容	対応状況	次年度対応
1	VI-25	7.11.3	安全安心・危機管理	【情報セキュリティ対策】 個人情報保護の観点から、必要な措置及び管理体制の確立。	マニュアル 担当者へのヒアリング	B		B		無				
2	VI-27	7.11.3	安全安心・危機管理	【緊急対策】 防火、防災、防犯、救急等の緊急時対応の体制が適正であるか。	報告書	B		B		無				
3	II-11	7.11.3	適正な施設管理・運営	【施設利用の公平性】 施設の市民利用の公平性は保たれているか。 ⇒公平なサービス提供のためのマニュアルづくり(実施)	マニュアル 担当者へのヒアリング	B		B		無				
4	I-8	7.11.3	安定した施設管理・運営	【委託の適正執行】 第三者への委託が適正になされ、その水準は適正であるか。	月例報告書	B		B		無				
5	V-22	7.11.3	環境配慮	【エコ活動】 LAS-Eにそった環境配慮行動を実施する。	月例報告書	A	展示室、収蔵庫の空調機の運転仕様を見直し、美術館としての適正な温湿度を保ったまま、電気使用量削減が目標の10%を上回った。	A	3月に省エネ診断のアドバイスを受け、空調管理会社と調整の上、運転仕様を見直し、削減効果を出していることは評価できる。	無				
6	IV-20	7.11.3	効率的な施設管理・運営	【コスト削減】 委託費、光熱水費、消耗品費・備品購入費の削減に取り組んでいるか。(特に、節電対策)	月例報告書 担当者へのヒアリング	A	展示室、収蔵庫の空調機の運転仕様を見直し、美術館としての適正な温湿度を保ったまま、電気使用量削減が目標の10%を上回った。	A		無				
7	III-13 III-14	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用者満足度の向上】 利用者からの苦情やニーズに適切に対応し、改善策を講じているか。	月例報告書	B		B		無				
8	IV-19	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用促進①】 特別展、その他事業の活性化(入館者数の増加)への取り組み。	報告書	B	伊丹市立美術館、尾道市立美術館、北海道立函館美術館との共同で海外(オランダ)のコレクションを中心とした「陶酔のバリ・モンマルトル」を開催。ギャラリートーク1回、ワークショップ2回を開催、また芸術文化振興課との連携で、いちようホール小ホールでのバリをテーマにしたコンサートを開催した。観覧会入場者数4,845人。 八王子出身の人気イラストレーター「たむらしげるの世界展Ⅱ」を開催。アーティストを招きトークを開催140名の集客があった。観覧会入場者数4,236人。 市内の美術大学と協働し、「来たれ! 未来のクリエイター」を開催。夏休みにあわせ親子で体験・鑑賞できる展覧会とした。7月30日の月曜日を臨時開館。7月入場者数195人(うち30日は27人) また、市内3つの美術館でのスタンプラリーを7月28日よりスタートした。	A	他地域の美術館、市内の美術大学、財団内別部署と連携した催しを企画し、入館者数の増につながっていることを評価する。	無				
9	III-18	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用促進②】 PR・パブリシティ活動の実施を具体的に記載する。	月例報告書	B	特別展ごとにポスター、チラシを制作、市内及び近隣施設、美術関係施設、教育施設等に配布。「たむらしげるの世界展」では自治会への掲示依頼を行った。自治会への配布は、昨年度まで原則定数としていたが、今回より掲示枚の数分送付し、結果配布枚数を増加させた。報道関係にプレスリリースを発送、本庁記者クラブへの投げ込みを行った。また、市の広報、庁内放送への周知を依頼。「たむらしげるの世界展」以降は市HPのイベント情報で紹介されるようになった。また市内3美術館のSUNKANラリーが市HP「市長の部屋」で紹介。財団情報誌「ららら」に毎月展覧会情報を掲載、美術館独自のHPを運営し、各展覧会、イベントを周知した。 新聞および地元情報紙を中心に広告出稿、「たむらしげるの世界展」では中央線沿線に駅貼りポスターを掲出した。 7月中にスタートしたSUNKANラリーでは事前に小中学校にアンケートを実施し、事業の周知を図るとともにラリーシートの希望枚数を掌握し、確実な数量の配布を行った。 取材記事、報道は次のとおり 産経新聞5.17、朝日新聞4.20、展覧会ガイド4月号、月刊ギャラリー4月号、美術の窓4、5月号、ホットペッパー5月号、多摩テレビ4.30~5.6、エフエム小金井4.16、デイリー八王子4.13、しんぶん赤旗6.22、長野日報6.10、東京新聞ゆめぼけ5.31、読売新聞多摩版6.13、毎日RT6.15、都政新聞6.26、毎日新聞だいたい7.4、毎日RT7.11、展覧会ガイド6.7月号、美術の窓6.7月号、月刊ギャラリー6.7月号、多摩らびNO.74、キャレル6月号、ホビーマガジン7月号、ハイパーホビー7月号、クアント7月号、ホットペッパー6月号、ショッパー6.1、読売新聞ほうむらうん6.5、帝国芸術新聞6.15、アサコ7.1、多摩テレビ5.26~6.1、ショッパー7.28、その他インターネットミュージアム等多数のWeb媒体で紹介された。	A	特別展ごとに多くのメディアにプレスし、多くの新聞や月刊誌、近隣地域のテレビや放送局に取り上げられていることを評価する。	無				

# 24年度 期中モニタリング(事業評価)シート (別紙様式 2)

施設名: 夢美術館

11月

NO.	期末モニタリング細目番号	評価月	評価項目	具体的な事業内容と成果目標・指標	確認資料等	8~11月								
						指定管理者の自己評価		所管課評価		改善プラン		所管課確認		
						評価区分	コメント	評価区分	コメント	改善・指摘事項の有無	時期	内容	対応状況	次年度対応
1	VI-25	7.11.3	安全安心・危機管理	【情報セキュリティ対策】 個人情報保護の観点から、必要な措置及び管理体制の確立。	マニュアル 担当者へのヒアリング	B		B		無				
2	VI-27	7.11.3	安全安心・危機管理	【緊急対策】 防火、防災、防犯、救急等の緊急時対応の体制が適正であるか。	報告書	A	3.11大震災以後の動向を受けて、新規の災害対策マニュアル策定に着手。10月30日、12月20日に法人全体で会議を持ち、各施設の特性に合わせた対策について検討した。継続中。	B	大震災を受けて新たな災害対策マニュアル策定に向けて財団全体で会議を持っているということで、成果を期待する。	無				
3	II-11	7.11.3	適正な施設管理・運営	【施設利用の公平性】 施設の市民利用の公平性は保たれているか。 ⇒公平なサービス提供のためのマニュアルづくり(実施)	マニュアル 担当者へのヒアリング	B		B		無				
4	I-8	7.11.3	安定した施設管理・運営	【委託の適正執行】 第三者への委託が適正になされ、その水準は適正であるか。	月例報告書	B		B		無				
5	V-22	7.11.3	環境配慮	【エコ活動】 LAS-Eにそった環境配慮行動を実施する。	月例報告書	B		B		無				
6	IV-20	7.11.3	効率的な施設管理・運営	【コスト削減】 委託費、光熱水費、消耗品費・備品購入費の削減に取り組んでいるか。(特に、節電対策)	月例報告書 担当者へのヒアリング	B		B		無				
7	III-13 III-14	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用者満足度の向上】 利用者からの苦情やニーズに適切に対応し、改善策を講じているか。	月例報告書	B		B		無				
8	IV-19	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用促進①】 特別展、その他事業の活性化(入館者数の増加)への取り組み。	報告書	A	市内の美術大学と協働し、「来たれ! 未来のクリエイター」を開催。夏休みにあわせ親子で体験・鑑賞できる展覧会とし、3,231人が入館者し、そのうち小中学生の入館者数が1,110人(約35%)となった。8、9月の土日に東京造形大学の教員等を講師として招き、ワークショップ(造形体験)を計8回開催し72名が参加した。会期中、市内3つの美術館(東京富士美術館・村内美術館・当館)を巡るスタンプラリー「SUN☆KANラリー」を9月2日まで行いのべ911名が参加した。 9月14日より11月11日まで「オールドノリタケのなかの女性たち」を開催、入館者数は5,391人、会期中ゲストによるトーク2回、学芸員によるトーク2回、計4回を開催し172名が参加した。9月15日からは多摩地域13の美術館で連携したラリーを開催(12月16日まで)。 11月30日からは収蔵品による展覧会(常設展)を開催。	B	入館者増につながる漫画、アニメに頼らない企画をしていること、夏休みにあわせて親子で体験鑑賞できる企画を行ったこと、市民参加型の企画を行っていることは評価できる。入館者が減少しており、増加になる工夫をしてほしい。	無				
9	III-18	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用促進②】 PR・パブリシティ活動の実施を具体的に記載する。	月例報告書	A	特別展ごとにポスター、チラシを制作、市内及び近隣施設、美術関係施設、教育施設等に配布。チラシ、パンフレットは新設された駅前観光案内所でも配布開始。「オールドノリタケのなかの女性たち」では自治会への掲示依頼を行った。報道関係にプレスリリースを発送、本庁記者クラブへの投げ込みを行った。また、市の広報、庁内放送への周知を依頼、財団情報誌「ららら」に毎月展覧会情報を掲載、美術館独自のHPを運営し、各展覧会、イベントを周知した。 新聞および地元情報紙を中心に広告を出稿した。 取材記事、報道は次のとおり 「来たれ! 未来のクリエイター」東京新聞8.2・8.26、読売新聞8.25、美術の窓8月号・9月号、月刊ギャラリー8月号・9月号、宣伝会議8.15号、つくりびとvol.05、展覧会ガイド8月号、桑沢学園広報誌Creative Spiral vol.1、東京新聞ショッパー8.3、Free Paper Dio vol.12、町田市生涯学習ナビ8月号・9月号、八王子テレメディア8.17 「オールドノリタケのなかの女性たち」長野日報8.26、読売新聞9.28・10.9、朝日新聞10.17、毎日新聞9.28、しんぶん赤旗9.26、東京新聞10.28、都政新聞11.6、帝國芸術新聞10.15、週刊新潮10.18、フレッシュ10月号、多摩らびNo.76、新美術新聞8.21号、展覧会ガイド10月号、Hot Pepper9月号、月刊ギャラリー10月号・11月号、美術の窓10月号・11月号、よみうりサンタマリア8月号、アサコ9.2号、読売新聞ほうむたうん9.5号、東京新聞ショッパー9.21号、八王子テレメディア9.28、エフエムむさしの その他インターネットミュージアム等多数のWeb媒体で紹介された。	A	広く広報していることは認められる。更なる入館者増につながる工夫をしてほしい。	無				

# 24年度 期中モニタリング(事業評価)シート (別紙様式 2)

施設名: 夢美術館

3月

NO.	期末モニタリング細目番号	評価月	評価項目	具体的な事業内容と成果目標・指標	確認資料等	12~3月								
						指定管理者の自己評価		所管課評価		改善プラン		所管課確認		
						評価区分	コメント	評価区分	コメント	改善・指摘事項の有無	時期	内容	対応状況	次年度対応
1	VI-25	7.11.3	安全安心・危機管理	【情報セキュリティ対策】 個人情報保護の観点から、必要な措置及び管理体制の確立。	マニュアル 担当者へのヒアリング	B		B		無				
2	VI-27	7.11.3	安全安心・危機管理	【緊急対策】 防火、防災、防犯、救急等の緊急時対応の体制が適正であるか。	報告書	B		B		無				
3	II-11	7.11.3	適正な施設管理・運営	【施設利用の公平性】 施設の市民利用の公平性は保たれているか。 ⇒公平なサービス提供のためのマニュアルづくり(実施)	マニュアル 担当者へのヒアリング	B		B		無				
4	I-8	7.11.3	安定した施設管理・運営	【委託の適正執行】 第三者への委託が適正になされ、その水準は適正であるか。	月例報告書	B		B		無				
5	V-22	7.11.3	環境配慮	【エコ活動】 LAS-Eにそった環境配慮行動を実施する。	月例報告書	A	展示室、収蔵庫の空調機の運転仕様見直しを継続し、美術館としての適正な温湿度を保ったまま、電気使用量を昨年度比で同時期22.7%減とした。(8-11月比は10.2%減、4-7月期は12%減、年間で15%減)	A	3月に省エネ診断のアドバイスを受け、空調管理会社と調整の上、運転仕様を見直し、削減効果を出していることは評価できる。	無				
6	IV-20	7.11.3	効率的な施設管理・運営	【コスト削減】 委託費、光熱水費、消耗品費・備品購入費の削減に取り組んでいるか。(特に、節電対策)	月例報告書 担当者へのヒアリング	A	展示室、収蔵庫の空調機の運転仕様見直しを継続し、美術館としての適正な温湿度を保ったまま、電気使用量を昨年度比で同時期22.7%減とした。(8-11月比は10.2%減、4-7月期は12%減、年間で15%減)	A		無				
7	III-13 III-14	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用者満足度の向上】 利用者からの苦情やニーズに適切に対応し、改善策を講じているか。	月例報告書	A	「大正ロマン昭和モダン展」関連イベントで定員60名のところ大きく上回る応募があったため、イベント会場レイアウトを再検討して、定員を20名増やした。	A	好評であるイベントの再調整をして定員を殖やしたことは市民サービスとなっている。また、芸術文化振興課との連携で美術と音楽を結び付け、相乗効果があったと思われる。	無				
8	IV-19	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用促進①】 特別展、その他事業の活性化(入館者数の増加)への取り組み。	報告書	A	市内在住、在勤、在学者を大正とした「市民公募 夢美エンナーレ入選作品展」を開催。学園都市として、過去に在学した出身者も応募可能として継続している。隔年開催。221点の応募(出品は186点)から70点の入選者を専門家による審査員が選定し、大賞を含めた賞を審査員に加え一般来館者が投票で決める出品とともに賞決定に市民が参加するユニークな公募展として定着。開催時期を例年の2、3月から前倒して12、1月に変更したが、応募数に影響はなく順当に開催できた。入館者数2,369人。収蔵品展示では、所蔵作品の紹介に加え、新規事業として、これまでのワークショップ等の活動を紹介するコーナーを設け、講師による作品展示も加えることで、話題を作り、二千人を超える入館者数を得た。入館者数2,529人。2、3月には「大正ロマン・昭和モダン展」を開催。当初目標の20%を超える来館者があった。学芸	A	常設展でフェルトアートの特別展示を行ったり、大正ロマンの展示でコンサートを行ったことが利用者数増につながっている。	無				
9	III-18	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用促進②】 PR・パブリシティ活動の実施を具体的に記載する。	月例報告書	A	特別展ごとにポスター、チラシを制作、市内及び近隣施設、美術関係施設、教育施設等に配布。「大正ロマン・昭和モダン展」では町会・自治会にポスターを掲示依頼した。報道関係にプレスリリースを送付、本庁記者クラブへの投げ込みを行った。また、市の広報、庁内放送の周知を依頼、財団情報誌「ららら」に毎月展覧会情報を掲載、美術館独自のHPを運営し、各展覧会、イベントを周知するほか、新聞および地元情報紙を中心に広告を出稿した。「収蔵品展示」でもチラシを制作し、近隣施設等に配布した。主な取材記事、報道については次のとおり。「市民公募 夢美エンナーレ入選展」月刊ギャラリー、美術の窓、展覧会ガイド他スケジュール掲載。東京新聞ショッパー1.11号、他展力等Webサイト「大正ロマン昭和モダン展」朝日新聞マリオン1.30、長野日報2.3、毎日新聞別刷(夢伝号)、いきいき2月号、現代挿花2・3月号、八王子テレメディア他、多摩でばこネット等Webサイト多数に紹介されるほか、「八王子音楽祭」では出演者の協力を得て、ツイッター等Web上で話題とすることができた。「収蔵品展示」読売新聞12.9、東京新聞12.12、読売新聞12.13、中日新聞12.23ほか	A	よくPRしていて、マスコミ等で取り上げられている。	無				

# 24年度 期中モニタリング(事業評価)シート (別紙様式 2)

施設名: 夢美術館

NO.	期末モニタリング細目番号	評価月	評価項目	具体的な事業内容と成果目標・指標	確認資料等	所管課年間評価		備考
						評価区分	コメント	
1	VI-25	7.11.3	安全安心・危機管理	【情報セキュリティ対策】 個人情報保護の観点から、必要な措置及び管理体制の確立。	マニュアル 担当者へのヒアリング	B		
2	VI-27	7.11.3	安全安心・危機管理	【緊急対策】 防火、防災、防犯、救急等の緊急時対応の体制が適正であるか。	報告書	B		
3	II-11	7.11.3	適正な施設管理・運営	【施設利用の公平性】 施設の市民利用の公平性は保たれているか。 ⇒公平なサービス提供のためのマニュアルづくり(実施)	マニュアル 担当者へのヒアリング	B		
4	I-8	7.11.3	安定した施設管理・運営	【委託の適正執行】 第三者への委託が適正になされ、その水準は適正であるか。	月例報告書	B		
5	V-22	7.11.3	環境配慮	【エコ活動】 LAS-Eにそった環境配慮行動を実施する。	月例報告書	A	H24年3月に省エネ診断のアドバイスを受け、早速、空調管理会社と調整の上、運転仕様を見直し、削減効果を出していることを評価する。	
6	IV-20	7.11.3	効率的な施設管理・運営	【コスト削減】 委託費、光熱水費、消耗品費・備品購入費の削減に取り組んでいるか。(特に、節電対策)	月例報告書 担当者へのヒアリング	A	展示室、収蔵庫の空調機の運転仕様を見直し、美術館としての適正な温湿度を保ったまま、電気使用量を前年度に比べて13%以上削減できたことを評価する。	
7	III-13 III-14	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用者満足度の向上】 利用者からの苦情やニーズに適切に対応し、改善策を講じているか。	月例報告書	A		
8	IV-19	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用促進①】 特別展、その他事業の活性化(入館者数の増加)への取り組み。	報告書	B	美エンナーレは入館者数が通常の特別展と比較して伸び悩むため、11月まで低迷していたが、「大正ロマン昭和モダン展」で、芸術文化振興課と連携して美術と音楽とを結び付けることで入館者数増を図った。しかし、それまでの入館者数の伸び悩みを挽回するまでには至らず、累計入館者数の目標値に達していなかったことから、次年度に期待し、B評価とした。	
9	III-18	7.11.3	サービス向上・利用者増	【利用促進②】 PR・パブリシティ活動の実施を具体的に記載する。	月例報告書	A	特別展ごとに多くのメディアにプレスし、多くの新聞や月刊誌、近隣地域のテレビや放送局に取り上げられていることを評価する。	